

トホクのエンドウ栽培方法

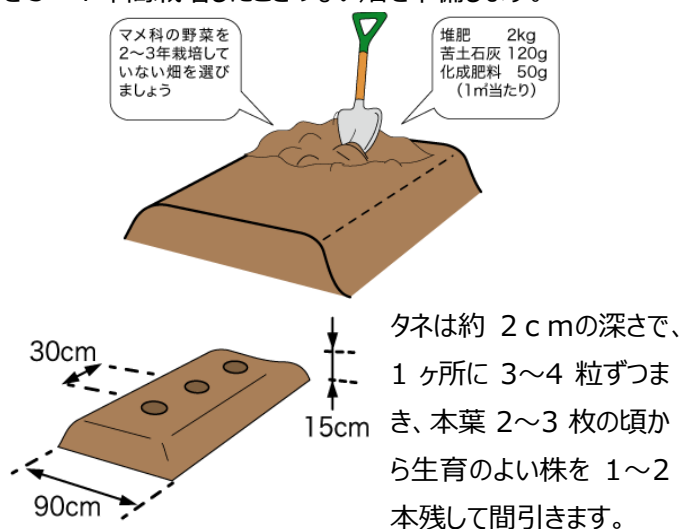
発芽適温：15～20℃ 生育適温：15～20℃
土壌酸度：pH6.5～7.0 連作障害；3～4年あける

1. 作物特性

エンドウには「つるなし」と「つるあり」の2種類があります。つるあり種は草丈が2m以上になりますから、ネットなどを利用しての栽培になります。つるなし種は草丈が約80cmと低いので、短い支柱で支える程度でよく、プランターでも栽培できます。冷涼な気候を好み、耐寒性が強いので秋まきして越冬させ翌春に収穫するという栽培が一般的ですが、積雪地帯や寒冷地では春まき栽培が行われています。

2. タネまき

エンドウは連作障害を起こしやすいので、エンドウや他のマメ類を3～4年間栽培したことのない畑を準備します。



ポットにタネをまいて約20日間育てた本葉3～4枚の苗を畑に植えつけることも可能で欠株を減らせます。エンドウはタネをまいた直後に大雨が降る場合や、水をやり過ぎて過湿になると発芽不良になる可能性があります。対策として数日間は雨の降らない日を選び、タネをまく1日前に畑に充分水をやっておき、タネまき当日から数日間は水をやらずに、土の表面が乾いてきたら水をやるようにします。



3. 栽培管理

適期にタネをまいて順調に生育した株でも、越冬中に直接強い霜にあうと植物体が傷んで欠株が発生します。切りわらやべた掛け資材などを使って防寒します。



春になってつるが伸長する前に、園芸用の支柱を立ててネットを張り、ネットにからませながらビニールテープなどでつるが横に広がらないよう誘引します。



最初は下の方からすくい上げるように誘引し、伸びるに従って、上の方に誘引テープを追加していきます。

晴天日が続いて畑が乾燥した場合は株元に積極的にかん水します。開花期以降に土壌が乾燥すると花が流れてしまい、収量が減少します。

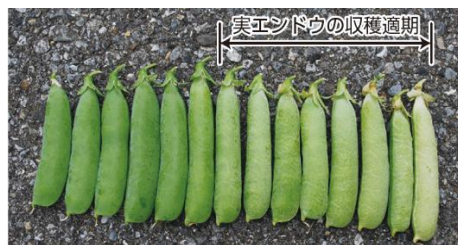
収穫が始まるとどんこ病が発生しやすくなります。適切に農薬などで防除することで長期間の収穫が楽しめます。



追肥は、花が咲いて莢が成りだした頃から1㎡あたり化成肥料50gを数回施します。

4. 収穫

収穫適期は莢エンドウでは花が咲いてから約10日で、スナップエンドウは14～20日でそれぞれ収穫できます。



実エンドウは莢の緑がうすくなってきて、表面にしわができてきた頃が収穫適期です。

